

中学生最後のシーズンで優勝することができてうれしいです

「全国大会で優勝することができてうれしいです」とにっこり笑う宮武さん。

第5回2002ジュニアスノーボード選手権全国大会（日本スノーボード協会主催）には、全国各地の小学生から高校生まで約100人が参加。宮武さんが優勝したデュアルスラローム競技は、同時にスタートした2選手が平行して2回滑り、合計タイムを競う競技で、昨年に引き続き大会2連覇を果たしました。

「レースは、積極的に滑ろうと思っていました、なかなか思いどおりにいかず、あまり満足はよく滑りができませんでした。でも、中学生最後のシーズンだったので、優勝できて良かった」とレースを振り返ります。

### 練習熱心で前向きな取り組みが 良い結果に

宮武さんがスノーボードを始めたのは小学4年生のとき。お父さんが、登別大谷高校スノーボード部の監督をしていたので、自分もやってみようと思ったのがきっかけです。

「5年生のときにジュニアのチームができてから、本格的に取り



▲力強い滑りを見せる宮武さん

組みました。スノーボードはスピード感があっておもしろいです。4月からは高校生になります、ずっと続けていきたいです。夏のトレーニングで基礎体力をしっかりとつけて、来シーズンはもっと上を狙いたいです。将来は、世界で戦えるような選手になりたい」と目を輝かせながら、将来について話してくれました。

指導する登別大谷&ジュニアレーシングチームの宮武和弘監督は、「今では、全国の中学生の中では、トップレベルに育ちました。今回の大会では、細かなミスはありましたが、何とか優勝することができました。練習熱心で、前向きに取り組んでいることが、良い結果につながっています。将来は、世界を転戦できるような選手に育てたい」と期待を寄せています。



# きらり

KIRARI

みや たけ しょう こ  
**宮武祥子**さん(富岸町)

2月2日(土)～3日(日)、長野県で開催された『第5回2002ジュニアスノーボード選手権全国大会』デュアルスラローム中学女子の部で、登別大谷&ジュニアレーシングチームの宮武祥子さんが見事優勝しました。

道内では、今シーズン出場した大会ですべて優勝するなど、大活躍の宮武さんにスノーボードへの思いなどを聞きました。

## 将来は、世界で戦えるような選手になりたい



昭和62年3月、登別市生まれ。15歳。  
緑陽中学校3年生。小学4年生からスノーボードを始める。練習場所は、カルルス温泉サンライバスキースキー場や留寿都村のルスツスキー場など。好きな教科は体育。